

2018年度（平成31年3月期）第2四半期
連結決算の概要

2018年11月9日

株式会社 キムラタン

2018年度第2四半期連結決算サマリー

<p>2018年度 2Q施策</p>	<p>構造改革 固定費削減と製造原価率の改善 成長業態の選択 ネット通販とBOBSONの2業態に絞り込み 新たな利益の付加 新テナントショッップの開発</p>
<p>2018年度 2Q業績目標</p>	<p>売上高 20億円 (前期比 +6.4%) 営業利益 △2億20百万円 (対前期 △5百万円)</p>
<p>2018年度 2Q業績概要</p>	<p>売上高 17億42百万円 前期比 △7.3% 計画達成率 87.1% 営業利益 △2億98百万円 前期差 △83百万円 営業CF △2億55百万円 前期差 +85百万円</p>
<p>2018年度 業績予想</p>	<p>売上高 45億円 前期比 +4.0% 営業利益 △260百万円 前期差 +1億27百万円</p>

2018年度第2四半期連結業績サマリー

既存店売上の苦戦により全社で前期比7.3%の減収となり赤字幅が拡大

単位：百万円

	2017年度 2Q	2018年度 2Q	前期比(%)
売上高	1,880	1,742	△7.3
売上総利益	959	884	△7.8
売上総利益率	51.0%	50.8%	△0.2pt
販管費	1,173	1,182	+0.7
営業利益	△214	△298	-
営業外損益	△13	△11	-
経常利益	△228	△310	-
特別損益	△0	△7	-
当期純利益	△230	△320	-

主な変動要因

売上高 前期比 △7.3%

既存店売上高が豪雨・台風の影響もあり苦戦
ネット、新テナントは増収となるが全体では減収

売上総利益率 対前期 △0.2ポイント

在庫消化のための値引販売増による

販売費・一般管理費 前期比 +0.7%

本社賃料・役員報酬等の固定費削減による減少と、
新規出店による人件費増、配送単価の上昇があり、
アパレル事業では前期比 △1.3%

全体では保育園事業の経費が純増となる

営業外損益

借入手数料が減少、株式交付費が増加

特別損益

災害による損失（豪雨・北海道胆振東部地震の影響）

2018年度第2四半期業態別の分析

Baby Plaza、BOBSONの既存店が不調。ネット通販、テナントショップは増収

単位：百万円

	2017年度 2Q	2018年度 2Q	前期比(%)
全社売上高	1,880	1,742	△7.3
■ Baby Plaza	1,005	919	△8.6
■ BOBSON	296	279	△5.6
■ テナント	106	123	+16.1
■ ネット通販	303	323	+6.6
■ 専門店卸	155	110	△28.8
■ 海外	12	△37	-
■ その他	-	23	-

主な変動要因

- **Baby Plaza** (既存店売上前期比 △9.3%)
豪雨・台風の影響もあり夏物販売が不調
- **BOBON** (既存店売上前期比 △5.6%)
在庫調整進むが新商品販売減収、雑貨アイテムは増収
- **テナントショップ** (既存店売上高 △12.9%)
新テナントショップ5店舗開設。全店では増収
- **ネット通販**
集客力向上により客数が増加
- **専門店卸**
2018年夏以降受注低迷し大幅減収となる
- **海外**
既存先からの返品引き取りによるマイナス
- **保育園**
魅力ある園づくりに努め定員確保。安定的収益見込む

2018年度第2四半期連結バランスシート

在庫販売と仕入抑制により前年同期末対比で在庫は減少

単位：百万円

	2018年 3月末	2018年 9月末	増減
総資産	2,418	2,513	95
流動資産	2,290	2,367	77
現金・預金	356	347	△9
受取手形・売掛金	588	467	△120
商品及び製品	1,231	1,379	148
固定資産	127	145	18
負債	1,185	1,114	△71
買掛金	53	177	123
借入金	831	678	△153
純資産	1,232	1,399	166

主な変動要因

現金・預金

在庫削減により営業CFのマイナス幅は縮小

商品及び製品

季節要因により前期末より増加するが、
前年同期末対比では1億33百万円減少

借入金

約定返済による減少

純資産

増減は、主に四半期純損失△3億20百万円と
増資による資本金等の増加4億85百万円による

2018年度第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

在庫圧縮により営業CFは改善しマイナス幅は縮小

単位：百万円

	2017年度2Q	2018年度2Q	増減
営業キャッシュ・フロー	△340	△255	85
税金等調整前四半期純損失	△229	△318	△88
減価償却費	14	12	△2
売上債権の増減（△は増加）	50	120	69
たな卸資産の増減（△は増加）	△230	△149	81
仕入債務の増減（△は減少）	59	123	63
その他	△6	△44	△38
投資キャッシュ・フロー	△16	△75	△59
財務キャッシュ・フロー	362	322	△40
現金・現金同等物期末残高	281	346	65

営業キャッシュ・フロー

四半期純損失は拡大するが在庫圧縮により改善しCFのマイナス幅は縮小

投資キャッシュ・フロー

主に本社設備、テナントショップの店舗設備の取得による支出

財務キャッシュ・フロー

主に借入金の純減1億53百万円と新株式の発行による収入4億78百万円による

2018年度通期業績予想

第2四半期業績を踏まえ通期予想は修正。下期以降の挽回に全力を尽くす

単位：百万円

	2017年度 実績	2018年度 修正予想	増減率 (%)
売上高	4,325	4,500	+4.0
Baby Plaza	2,284	2,140	△6.3
BOBSON	672	740	+10.1
テナント	224	380	+69.5
ネット通販	819	970	+18.3
ホールセール	279	220	△21.4
海外	41	0	-
その他	2	50	-
売上総利益	2,139	2,330	+8.9
売上総利益率(%)	49.5	51.8	-
販売費・管理費	2,527	2,590	+2.5
営業利益	△387	△260	-
経常利益	△424	△280	-
当期純利益	△469	△290	-

下期の見込み・挽回策

売上拡大

■ Baby Plaza

本部体制強化によりPDCAの精度向上

■ BOBON

秋冬物の仕入適正化・雑貨アイテムの一層の拡充

■ テナントショップ

下期以降も新規出店を実施し収益増を図る

■ ネット通販

インナーウェア等の新カテゴリー投入

出荷リードタイムの短縮によるサービス向上

コスト削減

ネット通販物流体制の変更による運送費削減

生産体制の見直しによる製造原価率改善

ブランド再編による不採算の解消

業績予想に関する記述

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

